

編集後記

昨年、文部科学省が国立大学に「人文社会科学系学部部の廃止、転換」を通知しました。以前から人文学系学問を軽んずる風潮は見られましたが、それに国が拍車を掛けたようなものです。たいへんに残念です。社会の要請に応えるためにというのですが、ほんとうでしょうか。当たり前のことですが、人間は何処にいようと、どんな職に就こうと、生きてゆかねばならない。人間にとって根源の問題である生きてゆく力の源になってくれるのは、哲学・文学・歴史学・言語学などの人文学ではないでしょうか。その学問の場を縮小するなど、とんでも無い方針です。

しかし、この事態に至った責任の一端は、人文学の研究・教育に携わるものにもあるのではないかと、自戒を込めて思うのです。その重要性をきちんと自覚し伝え切れてはいなかった。今後はこれまで以上にしっかりと、社会に発信してゆかなくてはいけないと思うのです。

(よ)

東海学園 言語・文学・文化

第十五号（通巻第七十四号）

平成二十八年三月二十日 印刷
平成二十八年三月三十日 発行 非売品

編集 名古屋市中平区中平二丁目九〇一番地
発行 東海学園大学日本文化学会

代表 小林 幸夫

電話 (五)八〇一―二二〇一
振替 〇〇八三〇―五―二九三二二

印刷所 豊橋市下地町字宮腰二四

(有) イシグロ 高速印刷